地域子育て支援拠点研修事業＜沖縄開催＞

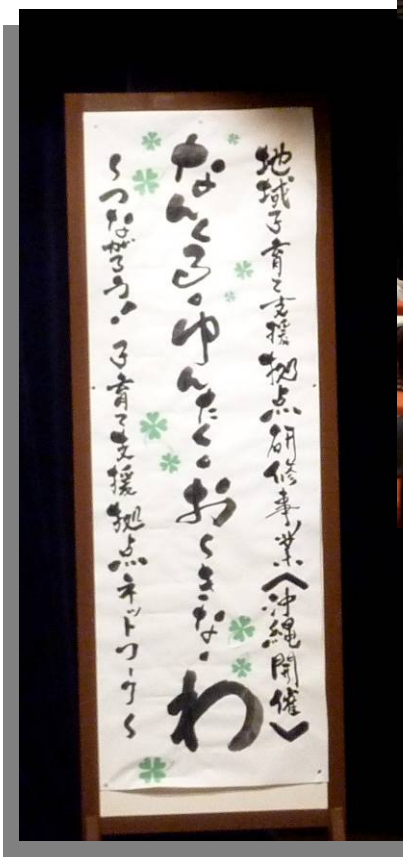
なんくる・ゆんたく・お～きな・わ

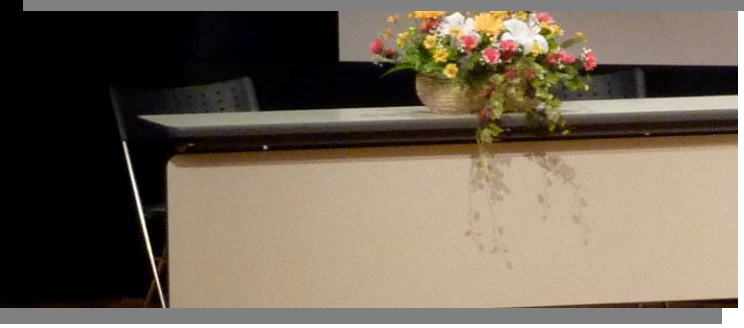
～つながろう！子育て支援拠点ネットワーク～

平成２１年１１月１４日「地域子育て支援拠点研修事業」＜沖縄開催＞が行われました。同事業における沖縄開催は初めてということもあり、県内各地（石垣島、宮古島含む）から２１５名の参加がありました。（反響の大きさに、当初、定員１５０名を予定していた実行委員会としては検討の結果５０名を追加、かつ当日の受付も臨機応変に対応することにしました。）新型インフルエンザの流行等の影響もあり、参加を断念する申込者もありましたが、県内各地に「地域子育て支援拠点事業」の意義と役割を発信するセミナーとなりました。

＜開催概要＞

◆開 催 日　平成２１年１１月１４日（土）　９時４５分～１６時３０分
◆会　　場　沖縄県立博物館・美術館（〒900-0006 那覇市おもろまち３－３－１）
◆主　　催　財団法人こども未来財団・NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会
◆後　　援　厚生労働省・（社福）全国社会福祉協議会・沖縄県・那覇市
　　沖縄県社会福祉協議会・那覇市社会福祉協議会・沖縄タイムス社・琉球新報社
◆協　　力　地域子育て支援拠点研修事業＜沖縄開催＞実行委員会・保育すけっと in ナハ
◆参加者数　２１５名（男性１７名　女性１９８名）
　　（行政 44 名　NPO・任意団体 34 名　他団体・企業 118 名　その他 19 名）





＜開催趣旨＞

平成 19 年度より、つどいのひろば事業、地域子育て支援センターを統合し、児童館などのスペースも活用しながら、地域子育て支援事業（ひろば型、センター型、児童館型）が新たに再編されました。そこで、行政とともに地域における子育て支援拠点間のネットワークを図りながら、地域子育て支援拠点の意義と役割を検証します。また、拠点スタッフ一人ひとりが日頃の活動を振り返り、見識を深め、スキルアップに寄与することを目的とします。

＜プログラム趣旨＞

「ゆいまーるで子育て支援」「なんくるないさー。ゆんたくさびら。」ここ沖縄では現在、地域子育て支援拠点事業として、ひろば型 21 カ所、センター型 28 カ所、小規模型 19 カ所、児童館型 5 カ所があり、その他保育園や個人、民間団体が独自に開設する子育てサロン等、様々な形態の子育て支援拠点が存在します。本研修会では、それぞれの実践を尊重しながら、「地域子育て支援拠点」の意義と役割を再確認します。また、ともに学び交流しお互いを知るなかで、それぞれの立場で出来る子育て支援やひろばのネットワークのありかたについて考え、支援者の資質向上と地域全体の子育て力向上を目指します。

＜開会挨拶＞

主催者挨拶	財団法人こども未来財団研修事業部部長	池野周平さん
開催地挨拶	那覇市長　翁長雄志さん	（こどもみらい部副部長　島田聡子さん代読）
実行委員長挨拶	保育すけっと in ナハ代表	糸数未希さん

財団法人こども未来財団
研修事業部部長　池野周平さん

那覇市こどもみらい部
副部長　島田聡子さん

保育すけっと in ナハ代表
糸数未希さん

◆プログラム１　基調報告　　10：00～10：30　　会場：博物館・美術館　講堂

「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課少子化対策企画室室長補佐　　鈴木健吾さん

子育て状況・現状をデーターをもとに分析した内容から、少子化時代における子育て支援事業の必要性をあげ、その中で「地域子育て支援拠点事業」は『子育てが始まった早い段階で子育て家庭が出会う公的サービスの一つである。様々なニーズに応じた多様な支援に結びつけていく窓口でもある。』『今年４月より、児童福祉法に基づく第２種社会福祉事業として位置付けられ、社会的認知度を高めていくよい機会である。』等、事業の位置づけや根幹部分についてパワーポイントを用いて丁寧にご説明いただきました。

会場から、「子育ての環境・状況について、地域によって違いがあるのではないか。」「地域実情に応じた事業実施ができるようにしてほしい。」などの声もありました。
そういう意味においても、本研修のような取組が重要であり、それぞれの地域においてニーズを把握し活動し声をあげていくことの重要性を考えさせる内容となりました。

また、子育て支援における人材育成の重要性に鑑み、ガイドラインの作成や次世代育成支援の人材養成事業（新規・ソフト交付金）や安心子ども基金の活用など、国の事業推進に係る予算措置についての説明がありました。

最後に、「子育て支援はすべての家庭を対象に、・・・子育てが孤立化しないように子ども自身と親の成長に寄り添う形で支援する事が重要である。」（社会保障国民会議最終報告の抜粋）という子育て支援の重要性を踏まえて、拠点事業を推進していただきたいと熱く訴えられました。

◆プログラム２　参加型パネルディスカッション

10：35～12：30　会場：博物館・美術館　講堂

「地域子育て支援拠点とは？その役割とは」

コーディネーター	みどり保育園　園長	石川キヨ子さん
パネリスト	淑徳大学社会学部教授	柏女霊峰さん
	練馬区光が丘子ども家庭支援センター所長	新澤拓治さん
	保育すけっと in ナハ代表	糸数未希さん
	NPO 法人りんくいしかわ代表	山城康代さん

はじめに、パネリストそれぞれの立場で現状報告及び基調提起していただきました。

柏女さんは制度面の視点からの報告で地域子育て支援事業は第２種社会福祉事業としての位置づけが規定されおり、信頼性が高く評価され社会からも認められているが、逆に社会的責任も伴うということを報告されました。また、これからのひろば活動を考える視点としては、ひろばは何を目的とするのかをしっかりと考えておかな

ければならないということと、ソーシャルキャピタル（人と人のつながり）を近代化に伴ってどのように再生していくのか、社会の再生を念頭に置いてひろばは何をするところなのか、ということを明確にしていく必要があるとのべられました。

新澤さんは、地域子育て支援拠点の果たしてきた役割をご自身の運営の専門的な立場から話されました。子育て支援は、拠点にきている人たちが力を発揮できるエンパワメントを育む視点や、地域に目を向けて子どもたちが育っていくために拠点は何ができるのか、また、基本事業プラスオーダーメイド（地域に合わせた子育て支援）が必要だということを話されました。

山城康代さんは、児童館設立に携わり、もともと主婦の集まりだった「子育てサークル」が、ひろば運営を行うことになった経緯を紹介されました。児童館のひろばの良さとして小中学生がひろばで地域を知り、子どもが小学校にあがると絵本の読みきかせや PTA 活動などに広がって行くことをあげていました。その一方で、スタッフが企画したイベントに参加し、その場限りのイベント的なつながりではなく、お母さんたちが自ら考えて自分たちで企画できるような担い手を育てることが課題だという指摘もありました。

糸数さんはひろばを立ち上げた経緯として県内の子どもや親が児童虐待という厳しい現実を抱えていることを知り、何かできることはないかと考え、小さくても何か温かい場所を親子に提供することからひろばの立ち上げたことを報告。財政面で、現在は助成金で運営ができているが、毎年いただける確定的なものではないので、運営は厳しいとのことでした。

登壇者それぞれの提起を受け、石川さんのコーディネートのもと会場から意見や質問を出し合う「しゃべりば」という形式の活発なディスカッションが行われました。
まとめの部分では、「沖縄の現状として、沖縄から“まちやぐぁ”（地域に密着している小さな商店）が減ってきており、それが地域性のつながりを薄めているのでは？」といった意見や、「以前はまちやぐぁに買い物にいくと、情報が自然に入った。おばあたち（おばあさんたち）が気軽に子どもに声をかけていたが、今は大型店舗やコンビニなどになっていて情報が行き届いていない現状であることを話された。また、地域に何が足りなくて、何が必要かを各自が考えていくことが大切で、それぞれの立場で拠点活動の展開が必要ということを話されました。

◆プログラム３　　分科会

＜第１分科会＞　13：30～15：00　　会場：博物館　講義室

「地域子育て支援拠点スタッフの役割とは？～スタッフに求められるものってなに？～」

コーディネーター	淑徳大学社会学部教授	柏女霊峰さん
事例報告者	実りの里保育園（名護市）園長	岸本功也さん
	那覇市古波蔵児童館　館長	長若道代さん
	那覇市つどいの広場わくわく子育てアドバイザー	安田静さん

参加人数が 115 名になり、会場は、熱気でムンムンでした。

はじめに、センター型、児童館型、ひろば型の３つの事例報告がおこなわれました。

岸本功也さんは「子育て支援センターあしびなー」の取り組みを試行錯誤しながら見えてきたことがあることをパワーポイント活用で映像を交えて事例を報告されました。すべての家庭を対象にし、親子がゆったりと憩い、くつろぎながら親同士つながることで、子育ての不安を解消し親を元気にしている。今、センター「あしびなー」に来ているお母さんの笑顔が、これからの時代を担う子どもたちの育ちの上でとても大切なのではと報告されました。

長若道代さんは、「子どもと一緒に楽しまないといちゃさんどー（もったいないよー)」というタイトルで報告されました。児童館の良さを発揮したいということで、ママ達もスタッフの一員となり、アドバイザーや職員と一緒に週１回のプログラムの設定を計画していき、親子、職員共々楽しみながらの相互の関わりの展開が伺えました。

スタッフの役割としては、自然体の関わりとおおらかさで OK。寄り添うこと、話を聞いてあげること、子どもの成長をともに喜ぶことなどがあげられ、最後に、子育て応援メッセージとして、今は大変だけど、自力で乗り越え、たくましいママたちがたくさん育ち、応援する側になってほしいとのメッセージが伝えられました。

安田静さんは、県内で最初に事業導入開設された那覇市のつどいのひろば「わくわく」の概要と現状について報告がありました。わくわくは気軽さ、アットホームさ、敷居の低さが特徴で、他の施設への窓口となっていることなどを報告。その中でアドバイザーとしての役割を「生きる力を中心にすえたわくわくの役割図」をもとに発表しました。

左から、柏女先生、岸本さん、長若さん、安田さん

報告者の発表後、討議の内容を

①拠点で何をしているのか？

②スタッフとして気をつけていること

③大事だと思うこと(大切にしていること)という三つのテーマで 16 グループそれぞれ活発な意見交換がなされました。

スタッフとした気をつけていることや大事だと思うことに、子どもの名前を覚える、背景にあった声かけをする、平等に対応する、価値観を押し付けない、求めるものを見極める力、程よい距離感の大事さなど、多くの意見が出されました。そして、自分の問題に気付き、自己決定を促すことや、地域がつながっていくことの大切さ等が意見として出されました。

最後に、16 グループ話し合いの内容を代表が発表し、拠点スタッフの役割として、たくさんの意見が出されましたが、「親子と寄りそうこと」「地域とつながること」「信頼関係の構築」などがキーワードでした。

◆プログラム３　　分科会

＜第 2 分科会＞　13：30～15：00　　会場：博物館・美術館　講堂

「多様なニーズから子育て支援を考える～地域がつながる支援とは？～」

コーディネーター	練馬区光が丘子ども家庭支援センター所長	新澤拓治さん
パネリスト	NPO 法人こども家庭リソースセンター理事長	與座初美さん
	みどり保育園園長	石川キヨ子さん
	那覇市社会福祉協議会第 1 課課長	山城　章さん
助言者	財団法人こども未来財団	池野周平さん

沖縄リソースセンターの與座さんは、「困っている家族のすべてのニーズに答えていく、論よりアクション、すべて行動するということに徹して NPO をやっている」「おばさんパワーで行政に対してファミリーサポートセンターや就労支援での託児などを認めさせ、制度ありきではなく、制度を行政へ作らせる活動をしてきた」といった話をされました。

みどり保育園の石川さんは、「地域で保育園を経営しながら、お世話になった地域へのお返しとして、子育て支援の為に『なんくる家』をつくり、職員がなんくる家のお便りを毎月 1000 部配っていたが、今ではお母さんたちが配ってくれるようになり、地域と顔を合わせたつながりが作れるようになってきた。」「ひろばは人と人をつなげていく場所になり、お母さんたちがお互いに支えあう関係になれる場所である。」と話してくれました。

那覇市社会福祉協議会の山城さんは、「民生児童員が地域のいろんな相談事にのり、子育てサロンが 2 か所開催されている。支援センターはサービスをするのではなくエンパワメントが必要で、いかに地域の方たちとつながりを持つかが大切な事では」と話されました。

いろんな子育て支援がある中でやはりキーワードは「地域がいかにつながるか」を考え、行政を待つのではなく、親自身のニーズや活動を掘り起こして、行政に届けて活動を認めさせるパワーも必要だと感じました。

（左から）新澤さん、池野さん
奥座さん、石川さん、山城さん

◆プログラム３　　分科会

＜第 3 分科会＞　13：30～15：00　　会場：美術館　講義室

「行政に届けよう、みんなの声を！～行政に望むこと、民間団体にできること～」

コーディネーター	那覇市こどもみらい部子育て応援課	山城いと子さん
ファシリテーター	おもちゃのひろば Woody　Tutti	外間鉄也さん
	愛さん会	平良博子さん
	てぃーだの家	張本三香さん
	絵本と童具の子育て広場がじゅまる	若尾美希子さん
助言者	厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課	
	少子化対策企画室 室長補佐	鈴木健吾さん

コーディネーターの山城さんより、①民間のひろばの現状から今後のひろばの運営を考えよう ②官・民の役割を整理し、市民と行政の協働のあり方を考えよう　③今、伝えたいこと・思うことを語り、つながろう　という 3 つの討議の柱が提起され、4 つのグループに分かれて意見交換を行いました。参加者は 29 名でした。

4名のファシリテーターは、地域で個人やNPOで子育て支援活動を展開している方々で、今回の研修会の実行委員のメンバーです。

グループワークの内容は「なぜ、今回の研修に参加したのか。」「ひろばを立ち上げた理由・現状・課題」「民間のひろばと行政が事業として運営しているひろばの違いは？」などでした。

ファシリテーターの4人
(左から若尾さん、藤本さん、平良さん、外間さん)

行政に対する要望は「民間レベル、市民レベルの活動を認知してほしい」「情報交換の場を持ってほしい」「人材育成や団体育成への支援を」等いくつかあげられました。

コーディネーターである行政職員の山城さんは「地域にはいろいろなニーズがあり、支援体制や内容も多様化している。ひろばもいろいろあっていい。地域のひろばや取組みなど市民に情報を発信していきたい。行政が支援し協働で事業を推進することはやぶさかではないが、責任ある活動を展開できるよう皆さんも力をつけてほしい。皆さんの思いを受け止めて、どのような支援体制が築けるのか検討していきたい。」と述べられました。また、鈴木さんは、「民間のみなさんの声、地域の声がどのように行政に届くのか。どのように届けていくかが問題。次世代の後期行動計画策定においても、その声が反映させられるよう働きかけてもらいたい。」と助言されました。

◆プログラム４　　全体会

１）分科会報告　　15：05～15：25　会場：美術館・博物館　講堂

報告者

第１分科会	実りの里保育園（名護市）園長	岸本功也さん
第２分科会	NPO法人こども家庭リソースセンター理事長	與座初美さん
第３分科会	那覇市こどもみらい部子育て応援課	山城いと子さん

各分科会の発表者やコーディネーターからの会場の様子や討議内容の報告を通じて、全体で学びを共有しました。どの分科会も「時間が短かった」という印象でしたが、発表者の表情からは、充実した時間であったことが伺えました。

●第 1 分科会

参加人数が膨れ上がり、115 名と大規模な分科会となりました。
しかし、参加者全員が発言することを意図して、6～7 人のメンバー構成で 16 グループを作成。各グループで出された意見を残らず発表した岸本さんの表情には満足感と達成感が見られました。

「親子と寄りそうこと」「地域とつながること」「信頼関係の構築」がキーポイントでした。

●第 2 分科会

新澤先生からは、與座さん、石川さんの「おばさんパワー」が会場を沸かせたことが紹介され､「まったく形式や型にとらわれない活動をしている」とコメントされた 2 人の“おばさん”の笑顔が印象的でした。

また、山城章さんは、社会福祉協議会の共助の活動をたくさん紹介されたことに関連して、「地域力について考えさせられたが、おばさんパワーが生きている限り地域再生の可能性はあります」と結ばれました。

●第 3 分科会

参加者は 29 名。冒頭、この分科会は、4 名のファシリテーターの綿密な打ち合わせにより進行がスムーズに行われたことが報告されました。4 名のファシリテーターは「おかあさん力、お父さん力、おばさん力」を発揮して地域でひろばやコミュニティールームを立ち上げて活動されていますが、ファシリテーターの活動や人となりに魅かれて今回の研修に参加したという声もありました。

また、官民双方の沖縄のひろば事業の実情について、4 つのグループで話し合いが展開され、情報交換によりつながるきっかけになったとの報告がありました。

◆プログラム 4　　全体会

2）実践発表　　15：25～15：35　　会場：美術館・博物館　講堂

「沖縄の子育て～うちなーぐちや、わらべうたから見る子育て～」

実践団体　　NPO 法人うてぃーらみや

「かつて沖縄では、新しく宿った命のことを、『しでぃがふー』または、『しどぅがふー』といいました“天から授かった果報”というこの美しい言葉は、沖縄の豊かな精神文化を象徴しており、この島の子育て文化の礎となっています。」やさしい語りで始まった実践発表は、映像とわらべうたを織り交ぜ、会場いっぱいの参加者を癒しの世界へ誘いました。

うてぃーらみやの活動の柱は「文化」「自然」「コミュニティー」で、ひろばはわらべ歌や民話

の語りから始まります。親子の楽しいかかわりの象徴として「家庭で歌をうたう」ということの重要性、「先人たちが連綿と受け継いでくれたわらべうたには、はかり知れない思い・祈りが込められていること」を沖縄の自然と子どもたちの映像をバックに話されました。最後に、「子育てのエッセンスは島の歴史の中に根付いていて、子を持つ親や、子どもに携わるすべての人をエンパワメントします。子どもたちは、誇りと喜びをもって子育てができる社会の中で、本来持つ力で自然と育っていくものだと思います。」と結びました。

◆プログラム４　　全体会

３）対　談　　15：35～16：20　　会場：美術館・博物館　講堂

「沖縄の地域子育て支援拠点へのエール」

対談者　　NPO 法人びーのびーの理事長　　奥山千鶴子さん

保育すけっと in ナハ代表　　糸数未希さん

那覇でひろばを立ち上げたばかりの糸数さんと、びーのびーの理事長の奥山さんの対談は実践発表の余韻とお二人の穏やかな人柄でゆったりとした雰囲気で行われました。

お二人がひろばを立ち上げた経緯から始まり、糸数さんは、奥山さんの行動力の原点や行政とのかかわり方、事務局運営の秘訣などを引き出そうと質問を投げかけ、奥山さんは、ご自身の子育て経験やエピソードなどを交え、また、実践に基づくアドバイスやヒントをたくさん紹介されました。

「子どものふるさとづくりは親が地域とつながって」「当事者の声をどう届けるか」「ひろばは祝福のシャワーを浴びせるところ」等、たくさんのキーセンテンスがありました。沖縄においてはまだまだ事業として認知が低い「地域子育て支援拠点事業」を今後どのように展開していくのか。今回のテーマ「なんくる・ゆんたく・おおきな・わ」の精神で沖縄らしく、おきなわの子育てを、ひろばが拠点となって「たんぽぽの綿毛を飛ばすように」地域に伝えていけたらいいなと感じました。

＜閉会挨拶＞　16：20～16：30　会場：美術館・博物館　講堂

平良博子さん　　保育すけっと in ナハ副代表

大城千賀子さん　総合司会（保育すけっと in ナハ会員）

閉会あいさつをする平良さん（手前）と
総合司会の大城さん